

安全な安らぎ（ホーム）としての光の世界

—臨死体験に関する I 考察—

齋藤忠資

「神よ、あなたは我々をあなたに向けて造られたので、我々はあなたを見出すまで、真の安らぎを得ることは得ることはありません。」（アウグスチヌス、告白録）

私達の自己意識のコアは、真の安らぎを（ホーム）を求めている。それは P.ティリッヒの言う、人間の多くの願いの中の「究極的関心事」であり、F.シュライエルマハーのいう神への絶対依存感情である。我々は一生真の安らぎ（ホーム）を求めて生きるが、それを物質の世界に見出すことは出来ない。物質の世界は肉体の欲望は満たしてくれるだけであり、物質的にいくら豊かであっても、自己意識のコアが真に満たされることはない。自己意識のコアが真に満たされ、真の安らぎ（ホーム）を見出す事例は、臨死体験で自己意識のコアが、物質ではない天の光と会った例と、地上で生きている間に、突然天の光によって自己意識のコアが照らされた事例に見られる。自己意識のコアを完全に満たしてくれるのは、物質を超えた天の光である。肉体の渇きは水の存在を実証するものではないが、水が存在することを指示している。このアナロジーとして、心の渇きはそれを満たしてくれる物質を超えた天の光が存在することを、科学的に実証するものではないが、主体的な心の体験として、天の光が存在することを指示している。（道しるべのように）臨死体験の例には、メタファーとして物質ではない水・川・海のイメージが思念形態（ホログラム）が多く見られるのは、決して偶然ではない。自己意識のコアが求める真の安らぎ（ホーム）は、天の光が存在しなければ生じない。自己意識のコアが安らぎ（ホーム）を求めるのは、それが欠如しているからである。天の光は我々に初めから備わっているものではなく、水が喉が渇いた人間の外に存在するように、人間存在の外にある。真の安らぎ（ホーム）はすべての人が求めており、宗教の信者に限られてはいない。臨死体験者は自己意識のコアが、脳と肉体を超える超意識にシフトする。それは脳と肉体に依存せず、独立した存在である。私と言う自己意識のコアは、物質の世界を超えた天の光にのみ、真の安らぎ（ホーム）を見出す存在である。この自己意識のコアは、物質の世界に完全な真の安らぎ（ホーム）を見出すことはない。臨死体験では、自己意識のコアは脳と肉体から脳と肉体を超える、状態にシフトするが、それは自己意識のコアが肉体に真のアイデンティティ（真のホーム）を見出すものではないことを示している。自己意識のコアは肉体を超えた後も、地上や宇宙空間を飛行するが、物質の世界にアイデンティティ（真のホーム）を見出すことはない。また暗いトンネルを通過するが、自己意識のコアがトンネルの中に真のアイデ

ンティティ（真のホーム）を見出すこともない。トンネルの先の物質を超えた光の世界に入った時、自己意識のコアは初めて真のアイデンティティとホームを見出す。真の自己（完全な私・ハイヤーセルフ）は天の光の世界にあり、物質の世界の肉体の自己はその投影に過ぎないということである。¹⁾

臨死体験者は自己コアが光の世界に帰属していることに気付く。(belongingness) 自己のコアは光の世界に帰属しているが、両者は同一ではない。自己のコアは光の世界に帰属しているが、真のアイデンティティとホームが欠如している状態にある。水が欠如しているので、喉が渇くのである。自己のコアは物質の世界に存在している間は、光の世界から分離している状態にあり、物質の世界から解放されて、光の世界に統合されると、真のアイデンティティとホームを見出すのである。自己のコアは光の世界に合一すると、光の統合的全体意識のメンバーになるが、個が完全になくなるわけではない。統合的全体意識にアイデンティティはあるが、個は存続する。それは音楽では、個々の音色が存在しているが、音楽全体として統合されていて、完全に調和しているのと似ている。

以下光の世界の完全な安らぎ（ホーム）としての特徴を考察しよう。

① 臨死体験者の自己意識のコアの渇きが、光の世界で初めて満たされたと証言されている。代表的な例を挙げよう。

「トンネルを半分ほど進むと、もう一つの光の波が光源から放たれ、私の方に来て私に浸透し、完全な安らぎを与えてくれた。私は心の安らぎを長年求めてきたが、安らぎの束の間の瞬間だけしか見出すことができなかった。キーツやシェイクスピアを読み、酒を飲み、ドラッグをやり、女性と交際し、スポーツをやるなど、満足感を求めてあらゆることを試みてきた。しかし私は真の安らぎを一度も見出すことができなかった。ところがこの時は私の頭の天辺から足の先まで、私は全身で安らぎで満たされた。この安らぎは一時的なものではなく、永続したもので、この光は私の内部に宿った。」²⁾

「すべての人がこの地上で金や宗教や結婚などで求めてきたが、得られなかった安らぎを感じた。我々が求めている真の安らぎは、地上にはない。真の安らぎは光の存在のみにある。」³⁾

「真の安らぎ、無条件の慈しみ、ホームへの帰還、本源との結合は、私がいつも切望してきたものである。」⁴⁾

「光には私の魂が渇き求めていた愛と望みと安らぎがあった。」⁵⁾

「それは我々の願望と欠乏の全ての成就である。」⁶⁾

「私は持ちたいと欲したすべてを持った。そうありたいと意図していたすべてのものに私はなった。私は存在として夢見てきたところに到達した。」⁷⁾

「柔らかく暖かな光に満ちた、とても安らげる世界で、花畑も川もキリストもブッダも見なかった。魂としての自分にどんどんエネルギーが満たされていく気持ちで、魂のエネルギーで満たされた世界である。物質的に言うと、渇きが癒され腹がいっぱいになる感じである。」⁸⁾

「私の全存在はこの光にあこがれた。その輝きは感情ではなく存在であった。」⁹⁾

「光の中に入った瞬間、私は安らぎと喜びを感じた。」¹⁰⁾

② 完全な真のホームとしての光の世界

自己のコアは光速まで振動数を上げることによって、肉体から解放され、光の存在となって真のホームである光の世界に合流する。臨死体験者は光の世界に入った時、自己のコアがホームに戻ったと存在全体で実感している。光が自己のコアの本源であれば、光が自己のコアのホームであるのは当然であろう。「光の純粹意識は、私の真のホームであった。」

¹¹⁾

㊤ 真のホームは、真の安らぎがある所である。

「トンネルの先の光の世界で、私はまるでホームにいる感じがした。そこは信じがたいほどの安らぎとのどかさで満ちていた。」¹²⁾

「光の世界が真のホームであり、魂のすみかであり、そのホームに我々は、どうしてか分からないままにあこがれている。」¹³⁾

「ホームは私が本来あるべきところ、私が帰属している所であり、それまで味わったことのない親近感と安らぎを感じた。」¹⁴⁾

「そこには幸い・安らぎ・ハーモニー・帰属性が見られた。思い煩う必要がなく、気遣う必要もないようなホームに私はいた。」¹⁵⁾

㊤ ホームには安らぎのみでなく、慈愛も見られる。

「私は安らぎ・愛・喜び・解放感で満たされた。ついに私はホームに戻ってきたのだ。」¹⁶⁾

「光の存在は無条件の慈愛と許しとを備えていて、裁きはない。光は安らぎと喜びと至福と温かさを備えていた。私は本当のホームにいた。長い間離れていた私が本来帰属しているホームに戻ったように感じた。」¹⁷⁾

㊤ ホームには慈愛が見られる。

「光のエネルギーの源、愛で満たされた源が、我々のホームであり、我々はこのホームに帰属している。」¹⁸⁾

「光には愛があり、私はホームにやってきたと感じた。」¹⁹⁾

「さまざまな色が私のそばを通った時、私はホームにいるのだと、彼らは言った。地上では見ることがないような愛があるホームにいることはうれしいと、私は彼らに言った。」²⁰⁾

「光の存在の完全な愛がホームである。それは究極のホームに帰ることである。私は本来いるべきところにいた。私はそこに完全に適合した。」²¹⁾

「我々はそれぞれ別個の存在であっても、皆ひとつで、光り輝く一つのものの一部分なのでした。危険な旅を終えて、突然家に帰ったような感じでした。我々は皆あの愛の光の中にいて、今ではもう地上にいた時のように、離ればなれで、一人ぼっちではありませんでした。むしろ各人は全体の一部をなして、その全体とは一つのものだったのです。」²²⁾
この例では物質の世界では分離していた個々の意識も、光のホームでは、慈愛によって一

つの統合的全体意識になっていることを示している。

「トンネルの先にある光が、私のホームであった。私はやっと家に帰れたのだと思った。光の世界は私の故郷である。」²³⁾

「私は光の中のホームにいるかのようだ。」²⁴⁾

「逆らうことの出来ない磁力のように、光へと私は引っ張られた。光の海はホームであった。」²⁵⁾

「光の世界は私の真のホームであった。」²⁶⁾

「光源があり、そこがホームであった。」²⁷⁾

「トンネルの先には白い光があり、それはホームであった。」²⁸⁾

「トンネルの先の光は、真のホームであった。」²⁹⁾

「ここが私の本当のホームだと気が付いた。」³⁰⁾

「そこは魂の究極のホームである。」³¹⁾

「ついに私はホームにやってきたのだと、本当に感じた。」³²⁾

「私の肉体から上昇した瞬間、私は幻想の物質の世界をこえて、本当のリアリティの世界に入ったのが分かった。喜びに満たされて、私が再びホームに入ったことを、私の魂は知った。ホームは神の光とともに、私が存在する真の場所である。」³³⁾ この例では物質界はマヤーであり、光のホームこそ真の实在であることを示している。

「死は物質界を去って、ホームに移行することである。」³⁴⁾ この例では自己のコアが肉体を去って、純粋意識の光のホームに移行することが、死であるといわれている。

「真のホームは地上にはなく、天の光の世界にある。」³⁵⁾

③ 光の世界（ホーム）に帰属している自己にコア

④ 光の世界は真のホームであることは、そこが自己のコアが本来帰属している所であることである。物質は光の世界に帰属していない。光の世界には物質は存在しない。自己のコアは本来光の世界に帰属しているものであり、物質に帰属しているものではない。真の自己のアイデンティティは光の世界にある。すべての個人意識の真のアイデンティティは、**whole**にある。すべての自己のコアは本来統合意識に帰属している。すべての自己のコアは、光の完全な全体意識の部分であり、そのメンバーである。典型的な例を引用しよう。

「私はホームにいた。そこは私が帰属している所であった。」³⁶⁾

「私は私が本来帰属しているホームにいたように感じた。」³⁷⁾

「私が帰属している所に帰ったような感じがした。」³⁸⁾

「私は白い光に帰属していた。同時に光は私に帰属していた。」³⁹⁾

「光に私は帰属していた。光のあるところは、私が本来いることになっていたところである。」⁴⁰⁾

⑤ 自己のコアが帰属しているホームには、光の存在の愛で満たされているという例を挙げ

よう。

「天には光以外のものはなかった。光は地上のいかなるものよりも明るく輝いていた。光を発している光の存在が、私を包むと、私はこの上ない最高の愛を感じた。それは絶対的な仕方でも全面的な仕方でもリアルな仕方でも、包むことこそ大いなる愛であり、この上ない喜びを感じた。ここが私のホームであり、私が現実に帰属している所だと分かった。」

41)

「光の存在である我々は、愛のエネルギーの本源に帰属している。ここは我々のホームである。」⁴²⁾

「私はホームにいた。私はそこに帰属していた。神の光と共にあることから分離することは考えられない。それは地上のどのようなものよりも望ましいものである。神の光と愛から分離して、存在価値のあるものは、地上には何もない。」⁴³⁾ この例は自己のコアを真に満たすものは、物質の世界にはなく、光の世界のみにあることを示している。

「肉体から解放されて、他の次元に移行する。そこに真のホームがある。そこには言葉や時間や空間はなく、愛と憐れみが支配している。本当のIAMはスピリチュアルな存在である。スピリットの目は愛と覚醒で満たされていた。」⁴⁴⁾

◎自己のコアが本来帰属すべきところは、光のホームであるということは、光の世界に私の真のアイデンティティがあるということであり、本当の私は光の世界にあるということである。

「我々の真のアイデンティティは、身体ではなく、社会での役割・文化・仕事・ホビー・セックス・この世でのペルソナにはない。我々の意志・思考・感情は肉体のエゴに帰属することである。私の真のアイデンティティは、光の世界で万物との一体に目覚めることである。」⁴⁵⁾ ここでは肉体の存在として地上で生きている間は、我々は他者や他のものと分離しているが、光の世界で私が万物地一体になった時、真のアイデンティティと本当の自己に目覚めるといわれている。

④ 信の完全なる安らぎとしての光の世界

④光の世界がホームであれば、自己のコアが真の安らぎを感じるのは当然である。すべてのものが光の無条件の慈愛によって分離できない仕方でも、一つの全体として一体になっている。無条件の慈しみ（受け入れること）のあるところに、真の完全な安らぎ（ホーム）がある。安らぎはホームとの関連で言及されている。

「光の世界は安らぎとホームであり、それは感情ではなく、存在の状態である。」⁴⁶⁾

「命の川が流れ、完全な安らぎと幸いがあり、欠乏がなく満たされた感じであり、それはホームであり、私はそこから由来した。」⁴⁷⁾

「光に近づくと安らぎを感じた。それまで私が一度も味わったことのない安らぎである。さらに光に近づくと、光の中には白衣の人々の集団のようなものを見た。さらに近づくと、

私の悲しみと恐れは消え、ホームのように感じた。私の心はそれまで味わったことのない安らぎと至福・心地よさを感じた。光の中の安らぎでは、全ての苦痛や悲しみや地上の全てのネガティブな経験は全く存在しない。」⁴⁸⁾

⑩安らぎは愛との関連で言及される。

「光の世界で私は完全な心の安らぎと喜びと無条件の愛を感じた」⁴⁹⁾。

「この光の中で、私はそれまで味わったことのない愛で満たされた。私は変容され洗練され純粋にされた。過去のトラウマは消え、安らぎによって変容された。」⁵⁰⁾

「信じがたい安らぎ・幸福・全てに対する測りがたい愛・大いなる喜びに私は満たされた。私は肉体から解放され、重さがなく、すべての厄介なことや面倒なことから解放され、安らぎと幸福で満たされた。この物質とは別の命には死と言うものはない。地上の問題や喜びは、地上をこえたこの光の世界から見ると無意味である。この安らぎを乱すものは何もなく、悪意や恨みの可能性はないので、万物に対する愛を人は感じる。」⁵¹⁾

「光の世界には、完全な安らぎと無条件の愛が見られた。」⁵²⁾

⑪安らぎは帰属性との関連で出る。

「光の中には、安らぎ・帰属性・暖かさ・自由・健やかさが見られた。」⁵³⁾

⑫安らぎと愛が見られる光の世界は、自己のコアが生涯求めていたものである。

「暗いチューヴの先に、光の小さな点が見えた。その点からは、私の魂が求めていた愛と希望と安らぎが放たれていた。トンネルを出ると、全てに光が満ちていた。」⁵⁴⁾

「光源から連続的に光の波が発していた。第一の光波は暖かさと慰め。光は物質の光ではなく、感情を備えている光である。第二の光波は完全な安らぎ。そえはキーツやシェクスピアを読み、酒を飲み、女性と交際し、ドラッグをやり、私が生涯求めてきたが、どこにも見つけることができなかつたものである。私は全身安らぎで満たされた。」⁵⁵⁾

⑬光の世界には真の安らぎがある。典型的な例を挙げよう。

「真っ白い光に出会うと、私は後のも先にも感じたことのないほどの、完全な安らぎを味わった。」⁵⁶⁾

「光と絶対的な安らぎは一つである。言葉で表せないほどの安らぎで、私は圧倒された。」⁵⁷⁾

「光が近づくほど、安らぎが増し、光に接すると、私は今まで経験したことのない安らぎを感じた。」⁵⁸⁾

「光は安らぎと喜びを発していた。」⁵⁹⁾

⑤ 完全な安全性とくつろぎとしての光の世界

④完全な安らぎ（ホーム）は、命を脅かすような危険性のない安全なところでないと存在しない。

臨死体験でも真の安全性は、安らぎとホームとの関連で言及されている。代表的な例を引用しよう。

「スピリチュアルな安らぎは、肉体の感覚的知覚の不在と言う仕方では広まる究極の至福である。そこには表現できない壮大な安らぎと安全性と理解を持つ真の实在のみがある。この世界の肉体のエゴの知覚は、集団によって強化された共同体的幻想である。」⁶¹⁾

ここでは真の安らぎと安全性は、肉体から解放された光の純粹意識の世界でのみ実現するといわれている。

「光は完全な安全性を備えていた。私は傷つけられることも失われることもない。私は何も心配することはない。」⁶²⁾

「私はスピリットの愛に抱かれている状態の中で、安全であり、すべての事がOKで、全てが当然そうであるべき様な安全の中で、わたしは安心した。」⁶³⁾

「光に近づくと、私はそれまで味わったことのない安らぎを感じ、ホームを感じた。両親の両腕に抱かれている子供の様な安全性を感じた。」⁶⁴⁾

⑤ 全く危険性のない安全なホームでは、完全なくつろぎを感じることができる。典型的な例を挙げよう。

「光の中に完全なくつろぎと、今まで想像も出来なかったほどの快さを感じた。」⁶⁵⁾

「私は光の中で、全面的なくつろぎと心地よさを感じた。」⁶⁶⁾

「光の中で私はくつろぎを感じた。」⁶⁷⁾

「私はしっかりと守られていて、安全で愛されていると感じた。」⁶⁸⁾

⑥ 暖かさとしての、光の世界

真のホームは、心暖まる所であり、冷たさを感じさせない所である。臨死体験例でも、真のホームである光は暖かさを感じさせる。

「光は、それまで経験したことのない暖かさと配慮で人々を包んだ。」⁶⁹⁾

K.Ring は、光が臨死体験者に暖かさを感じさせるものであることを指摘している。⁷⁰⁾

「光は、暖かさを感じさせた。」⁷¹⁾

⑦ 自己意識のコアが帰還するホームとしての光の世界

光の世界が自己意識のコアのホームであり、本来帰属している所、すなわち真の自己・ハイアーセルフ・完全な自己が存在している所であれば、すべての自己意識のコアがこの光の世界に肉体の死後（肉体は物質界に還る）還るように知覚するのは当然であろう。

代表的な例を引用しよう。

「すべての魂は、例外なしに最終的には光に還る。」⁷²⁾

「我々は皆、ホームに帰る必要がある。誰一人失われることはない。」⁷³⁾

「どうして知っているのかさえ分かりませんでした。私はその場所が生前何をしたかに関わらず、死んだ人が全員いずれ辿り着く場所だということを理解していた。」⁷⁴⁾

「トンネルの先に光を見た。その光はホームだった。私はここに戻ることができるのみであることが分かった。すべての人はここにやってきた。このホームを避けたり、失うとい

う可能性はなかった。ここに戻る事が保証されている唯一のことであった。」⁷⁵⁾

私はホームに帰ってきたという例を2・3挙げよう。

「光の世界に入った時、私は家に帰ってきたのだと感じた。光はホームであった。」⁷⁶⁾

「神のもとで、私はホームへ帰ってきたことに気付いた。」⁷⁷⁾

「光の世界の中で、私は再びホームにいたと分かった。」⁷⁸⁾

⑧ 自己意識のコアが由来する本源とした光の世界

自己意識のコアが振動数を上げることにより、光の世界に合流した時、真のホームに還り、本来の自己意識のコアが帰属している所に還ったと実感し、知覚するという事は自己意識のコアの本源（つまり真の自己・ハイアーセルフ・完全な自己）が、光の世界にあり自己意識のコアは、光の世界から由来するということを意味する。このことは逆にも言えよう。自己意識のコアが元来、知覚上の問題としての光の本源(統合的全体意識)の思念形態として振動数を下げることによって、肉体に宿った光の存在であれば、光を自らのホームとして再び合しすることを切望するのは当然であろう。また、自己意識のコアは光の世界と合一することを潜在的可能性として備えていると言えよう。

典型的な例を紹介しよう。

「光は私の意識の源であり、私の意識の本質そのものであり、私の意識を育み、祝福で満たす。」⁷⁹⁾

「私はホームにいた。私はホームからやってきたし、常にホームにいる。始めも終わりもなく、私は宇宙自体と同様、永遠である。」⁸⁰⁾

「光の世界は長い旅の末、ついにホームに着いたという感じを与えた。私は以前にそこにいた。恐らくこの物質界に生まれる前にいた感じがした。」⁸¹⁾

「自分以外の所から来た光を、彼は吸い込んだ。そして存在と喜びで満たされた。それは以前にも知っていた感情だが、いつどこでかは分からなかった。」⁸²⁾

「天国に以前私はいたことがあるように思われた。私はここが私の本当のホームであることに気が付いた。」⁸³⁾

「私は天にまるで以前に一度いたことがあるかのように思った。」⁸⁴⁾

「私は以前そこにいた。私がどこにいたか今では分かっている。名前は分からないが、私は以前そこにいた。」⁸⁵⁾

「私は以前、天にいたことがあり、そこへ行けばそのことが分かるだろうということだった。」⁸⁶⁾

以上の例はいずれも、自己意識のコアが、この物質界に誕生する以前に、光のホームにいたことがあることを思い出すと言われている点について注意する必要がある。また、人間の自己意識のコアの由来が、光の世界にあり、そこに真のホームがあるのであれば、自己意識のコアが求めるホームは、物質界には見いだせないのは当然であろう。われわれは真のホーム。安らぎを物質界に求めて一生彷徨うが、結局見出すことはできない。真

のホームと安らぎは、光の世界にしか見い出せないが、多くの人間は光の世界を見失っている。

⑨ 肉体の制約による光の世界（ホーム）の忘却

自己意識のコアは、本来光の世界から由来しているのに、つまり、真の自己・ハイアーセルフ・完全な自己は、光の世界に在ることを、肉体の制約のために地上に生まれると共に忘れてしまう。

典型的な例を引用しよう。

「光の世界は私のホームであった。どうしてこのホームを忘れることができたのか不思議に思った。私は異国を長い困難な旅をしたのちに、やくホームに戻ったかのように感じた。」

87)

「このホームを肉体が忘れさせてしまっている。それは、この光が肉体の理解を超えているからである。」⁸⁸⁾

「光の世界のことを忘れて、魂は地上に人間として誕生する。」⁸⁹⁾

⑩ 光の世界がホームであることを思い出す

自己意識のコアは、肉体の制約から解放されると、光の世界が自分の真のホームであることを再び思い出す。

代表的な例を挙げよう。

「私は安らぎ、愛、喜び、解放感で満たされた。ついにホームに戻ったのだ。このホームの記憶が戻ってきた。私は学校にいて、ようやくホームに戻ってきた感じがした。」⁹⁰⁾

「天使とこの光の場所を、まるで私はすでに知っていたかのように感じた。」⁹¹⁾

⑪ 自己意識のコアと万物が由来し、再び還る所としての光の世界

⑧⑨⑩をまとめると、真の自己（ハイアールフ・全な自己）は、光の世界にあり、自己意識のコアは光の世界から由来するが、肉体の誕生と共にそのことを忘れ、肉体の死後、再び光の世界に還ることになる。

代表的な例を示そう。

「私が“光り輝く一つのもの”の一部分になった時、危険な旅を終えて突然、家に帰ったような感じでした。以前そこにいたことがあったことも、そのことをすっかり忘れていたことも分かりました。自分がこの世の生活を始めた創造の胎内に再び入ったと感じたのです。今や私はあの同じ始まりへと、地上の生活の終着点でもある所へと戻ったのです。」

92)

「愛のエネルギーを備えた光こそが、我々が由来し、死んだら戻っていく所である。」⁹³⁾

自己意識のコアのみではなく、同じことはすべてのもののエッセンスについても妥当する。すなわち、すべてのもののエッセンスは、光の世界から由来し、再び光の世界に還ることである。

典型的な例を挙げよう。

「光はホームであり、すべては光に始まり、光に戻る。光はすべての旅と学びの点である。」

9 4)

「生の自由を得るために、真のホームに還る必要があり、ホームから小さな光として、質界に誕生した時より改善された状態になった。」^{9 5)}

【註】

- 1) WJ.Bray, Eight Years Four Months: The Relationship Between Quantum Physics, Consciousness, Near Death Experiences, and Our Eternal Nature, 2011, 163~173
- 2) I. McCormack, A Glimpse of Eternity, Gospel Media Sweden, 2008, 51
- 3) www.iands.org/nde-archives/nde-accounts/more_than_euphoria_amid_the_presence.html
- 4) www.nderf.org/anita-c's-nde-like.htm
- 5) www.near-death.com/Wallace.html
- 6) R. Kruger, A Higher Good, Publish America, 2005, 22
- 7) B. Malz, My Glimpse of Eternity, Chosen Book, 1977, 86
- 8) 飯田史彦、ツインソウル、PHP 研究所、2006, 72~73
- 9) M. Robinson, Falling to Heaven, Arrow Publication, 2003, 97
- 10) www.nderf.org/alejandra-m-nde.htm
- 11) www.ndef.org/when-time-stand-still-nde.htm
- 12) K. Ring & S. Cooper, Mindsight, W. James Center for Consciousness Studies, 1999, 31
- 13) L. Zimmerman, www.oneworld-healing.com/experience.html
- 14) J. Papievis, Go Back and Be Happy, Monarch Books, 2008, 20
- 15) www.nderf.org/alejandra-n-nde.htm
- 16) www.nderf.org/tim-v-nde.htm
- 17) www.nderf.org/andrew-p's-nde.htm
- 18) www.iandes.org/ndeaccounts/lucid_and_rapid_thinking.htm
- 19) www.nderf.org/maria-tk's-nde.htm
- 20) www.nderf.org/michael-d's-nde.htm
- 21) www.nderf.org/dw-nde.htm
- 22) 片桐すみ子編、輪廻体験、人文書院、1977, 77
- 23) B. イーディー、死んで私が体験したこと、同朋舎出版、1995, 67. 177
- 24) L. Martin, Searching for Home, Cosmic Concepts, 1996, 16
- 25) www.spiritualtravel.org/OBE/rparaslow.html
- 26) L. Stewart, in K. Williams, Nothing Better Than Death, Xlibris Corporation, 2002
- 27) M. Giordanis, Journey Three Times into the Light, Vital Signs, vol21, no3, 2002, 4

- 28) A.S.Gibson, Journeys Beyond Life, Horizon Publishers, 1994, 190~191
- 29) www.nderf.org/a-child's-nde.htm
- 30) A.E.Yensen, I Saw Heaven, 14
- 31) 同上書、27
- 32) www.nderf.org/leslie-m's-nde.htm
- 33) N.Clark, Hear His Voice, Publish America, 2005, 64
- 34) www.nderf.org/stevw-b's-nde.htm
- 35) www.nderf.org/jean-r-nde-6166.htm
- 36) D.Piper, 90 minutes in Heaven, Revell, 2004, 33
- 37) www.org/iichard-p's-nde.htm
- 38) M.Grey, Return from Death, Arkana, 1985, 46~47
- 39) www.nderf.org/barbara-s's-nde.htm
- 40) www.nderf.org/dw-nde.htm
- 41) B.Springer, www.near-death.com/forum/nde/01.htm
- 42) www.iands.org/nde-archives/experiencer-accounts/lucid-and-rapid-thinking.html
- 43) N.Clark, Hear, 72
- 44) www.nderf.org/filiesha-probable-nde.htm
- 45) www.nderf.org/mathilde-n's-nde.htm
- 46) www.nderf.org/patricia-c-nde.htm
- 47) www.nderf.org/wayne-h's-nde.htm
- 48) www.nderf.org/wan-i's-nde.htm
- 49) www.nderf.org/anthony-n's-nde.htm
- 50) R.Wallace, The Burning Within, Gold Leaf Press, 1994, 95
- 51) www.nderf.org/esteban-fr's-nde.htm
- 52) www.nderf.org/carelina's-nde.htm
- 53) www.nderf.org/roga-m's-nde.htm
- 54) R.Wallace, Burning, 1994, 95
- 55) I.McCormack, www.aglimseofeternity.org/testimony.doc
- 56) M.モース、臨死からの帰還、徳間書店、1993, 55
- 57) M.Grey, Return, 46~47
- 58) B.Elder, And Whenn I Die, Weill I Be Dead> ABC Enterprises, 1987, 22
- 59) Ph.L.Berman, The Journey Home, Pocket Books, 1996, 35
- 60) H.Hone, The Light at the End of thr Tunnel, American Bio Center, 1986, 24
- 61) R.Kruger, Good, 22
- 62) C.Zaleski, Otherworld Journeys, Oxford University Press, 1987, 125
- 63) L.Stewart, www.near-death.com/lind-stewart.html

- 64) www.nderf.org/wan-i-s-nde.htm
- 65) K.Ring,Heading Toward Omega,Quill,1984,58
- 66) M.Grey,Return,44
- 67) R.Moody,Life After Life,Mockingbird,1975,59
- 68) P.M.H.アットウオーター、光の彼方へ、ソニーマガジン、1995,20
- 69)M.Morse,Closer to the Light,Villard Books,1990,115.138.154
- 70) Life at Death,Quill,1992,58~59;Heading toward Omega,53.58.60.67.68
- 71) M.Grey,Return,44.48
- 72) J.Nightingale,inY.Perry,More Than Meets the Eye,Nashville,2004,47
- 73) www.nderf.org/filiesha-probable-nde.htm
- 74) www.nderf.org/lana's-nde.htm
- 75) K.Ring,Lessons from the Light,Insight Books,1998,275
- 76) K.Ring,Omega,60.62
- 77) N.ドハティ、臨死・天国からの電話、Voice,2003,49
- 78) www.nderf.org/oheryl-n-nde.htm
- 79)www.nderf.org/mathilde-nde.htm
- 80) www.nderf.org/NDERF/NDE Experiences/jeffrey-o-nde.htm
- 81) K.Ring,Lessons,14
- 82) www.well.com/user/bobby/mystical/beyond-and-back.htm
- 83) www.near-death.com/experiences/reincarnation_06.html
- 84) Ch.Stein,Like an Angel,Weimarer Schiller Presse,2006,53
- 85) Celestial Travelers,Near Death Experience,Ray
- 86) 片桐すみ子編、輪廻体験、86
- 87) www.nerf.org/lisa's-nde.htm
- 88) www.oneworldhealing.com/experience.html
- 89) www.near-death.com/d.holman's-nde.html
- 90) www.nderf.org/tin-v-nde.htm
- 91) www.nderf.org/shawna-j's-nde.htm
- 92) 片桐すみ子編、輪廻体験、77~78
- 93) www.oberrf.org/kathy-u's-experience.htm
- 94) www.nderf.org/richard-l's-nde.htm
- 95) A.Suleman,A Passage to Eternity,Amethyst Publishing,2004,88